

## Introduction

アナデンの強敵戦はいろいろなカテゴリーがあります。再戦できるか否かという側面はその一つでしょう。

上半期にフィーネとサキが魅せてくれたような美しい勝ち方はもうできないでしょうけど、下半期も丁寧に戦闘を見ていきたい気持ちはあります。

そこで、とりあえず…これで安定したな

～と思ってもイマイチ感が残るようなら敢えて敗北し【1】、好みのキャラやアイデア等が出てくるまで待つというスタイルを試みることにしました。



## Impression

今後は堅苦しい攻略というより読書感想文みたいな感じでやっていきたい。第一印象として、とにかく火力ワンパン撃破をやりにくいようにしてると感じました。【2】

AS ミストレアでデバフしている以上、こちらがやられることはありません。のらりくらりと立ち回りながら様子を見ていました。

途中でシールド張ったり治癒したりして、安易な耐久戦もやらせないようにしている。でも試しにアナフォしてみると、そのダメージをケアし切れるほどではない。

さすが防御の特異点、プルマディアーナ。戦闘しながら作戦を組み立てる余裕があります。



## Practice

最終的に公開対象としたパーティーは「フィーネ・AS ミストレア・顕現ロゼッタ・ES ツキハ・AS シエル・顕現クロード」としました。

思う存分 AS ミストレアを堪能しましたね。防御面はまったく問題ない。攻撃面でも追撃で EPS-209 Murphy のシールドを剥がしてくれたり、とにかく大活躍です。

あとは ES ツキハ等が迎撃タイミングで攻撃しないようフィーネをフロントに出して回復したり、

## EPS-209 Murphy

### ～ シールド VS 防御の特異点・AS ミストレア ～

タイミング合わせて弓アナフォしたり。

3回くらいフルアナフォしたでしょう  
か。リラックスして勝てました。

収穫があったのは AS ミストレアの防御面もそうですが、ES ツキハは長期戦にも向いていることが確認できたことです。



## Afterword



Introduction に記述したような再戦行動に意味があるのかと言われれば、ないんですけどね。

結果的に AS ミストレアのような防御の特異点たるキャラが出てきたのだから、EPS シリーズを大切に扱って良かったと思っています。**【3】**

さて、アナデン下半期はどうしましょう？

そもそも下半期の fein 時層はもう、戦闘バランス云々を気にする必要がないのです。

長い時間を経てフィーネは無事★5になり、ついに2部結戦役で勝利した。いちいちプレイスタイルなんて決めなくて良いじゃないか。これが今の私の気持ち。

良いと思いますね。魅力的なキャラたちと共に冒険する最推しを眺め続ける RPG。

アナデンはこれからも続くのですから、★5となったフィーネを大切にしていきます。

AS ミストレアはあっという間に異節が3冊集まったんですよ。縁があります。めったにやらないツブラ交換して即時 SC。予告見ただけで防御の特異点って分かってたよ♪



## footnote

【1】普通ならタスクキルするようですね？ しかし、私はタスクキルが好きではありません。確証はないのですが、データ不整合などの遠因になっては困るからです。今一度、確証はありません。ゆえに、そうしたい方はタスクキルしまくっていただければよろしいでしょう。そっちのほうが数分早いからね。私はそもそも、アナデンを閉じる時に毎回毎回「タイトルへ戻る」を選択し、アプリを落ち着かせてからタスクを落としているのです。そういうのを面倒と感じない人間なのですよ。

この手法でアナデンを数年間続けてきて、少なくとも今までは、起動不可・アプデ進行不能といった重篤なトラブルに見舞われたことは一度もありません。

【2】全武器全属性を試したわけではありませんが、これ…たぶんだけど全ての武器、属性に耐性が付いているだろうと考えました。AS ミストレアの抑止力で守りながら私が感じていたのは「ここまでしないと味方側の火力をセーブできなくなっているのか?!」ということです。今までずいぶんと火力がインフレしてきました。特に2部中はほぼ防御面が上がらなかったことも記憶に新しいところ。そしてこの EPS-209 Murphy。では、2部中に ひったすら ひったすら ひったすら火力を上げてきたのはいったい何だったのだろう…そう感じるのって私だけでしょうか？ まあでも廻生があるからね。昔に比べれば意味が出てきたって感じですかね。

【3】AS ミストレアほどのキャラが出てくるとは正直思っていませんでした。EPS シリーズはいろんな試行錯誤をしていましたが、AS ミストレアを見た瞬間、もうこのキャラの実戦パーティーを公開用にしよう決めました。それほど注目に値します。